

世界のブルーベリー業界は2024年シーズンの立ち直りを目指す

[FreshPlaza 2024年10月11日](#)

世界中でブルーベリーを消費する人が増えており、世界のブルーベリー業界は今年の出荷量が回復することを期待している。今週マドリッドで開催されたフルーツアトラクションでは、国際ブルーベリー機構(IBO)が業界の概要を説明した。また、来年のIBO総会が南アフリカで開催されることも発表された。(詳細省略)

フォールクリーク社のCEOであり、IBOの「世界の業界事情2024」報告書の編集者であるコート・ブラゼルトン氏は、世界のブルーベリー需要は依然として高いと述べた(以下「」は同氏の話)。「今年の出荷量が少なく、価格は上昇傾向にある。最大の要因は、エルニーニョ等によるペルーでの減収であった。モロッコとスペインも天候の問題があり、価格が上昇した。」

同氏は、会員団体に対して新たな調査を行い、今後影響を与えると予想される業界の主要な問題について現状把握を行ったと述べ、その要点をまとめた。「市場を混乱させる悪天候の増加が業界の内部検討を促したこと、世界的な生産量の増加の影響、品質基準の高度化、新しい製品とカテゴリの出現、機関投資家の影響、ESG(環境、社会、企業統治)に配慮する傾向、及び将来の供給の変動はすべて、会員団体によって重視されている。」

アグロメトリクス(農業情報プラットフォーム)のデータ分析者で、IBOレポートの主要な統計をとりまとめているサラ・イリヤス氏は結果の概要について、ブルーベリーを栽培する国が世界的に増えており、主にエルニーニョ現象によって20万トンの不足が生じたが、新植によって埋め合わされたと説明した。

ブラゼルトン氏は、業界の資本的支出(設備投資)が依然として懸念されると警告した。「価格が高いにもかかわらず、すべての生産者が儲かったわけではない。数年の内には、天候などによって20万トンも左右されることなく、すべてが市場に出荷されるという大きな飛躍が起こるかもしれない。(南北半球間での)季節補完的な供給が急速に増加しており、収穫期とは逆のシーズンが新たな入荷のピークとなっている。寒い夏が、量と質の面で新たな供給ギャップを生むと予想される。」

結論として、ブラゼルトン氏は世界のブルーベリー業界に対して次のような賢明なアドバイスを提供した。「もし私がある生産者と同席してビールを飲みながらアドバイスをするとしたら、それは次のことになる。年間計画を立て、どの市場にどのように出荷するかを知り、新しい品種を評価するプロセスを決め、資本ニーズをどのように満たすかを決めなさい」というのがその要点である。

執筆者: クレイトン・スワート

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事)ペルー ブルーベリー輸出額が2024年の最初の8カ月で急増

[FreshPlaza 2024年10月10日](#)

輸出業者協会(Adex)の報告によると、ペルーの2024年1月~8月のブルーベリー輸出額は5億4,594万米ドルに達し、昨年(2023年)の3億8,575万米ドルから41.5%増加した。輸出先では米国が60%のシェアを占め、依然として最大の輸入国であり、前年比74.2%増の3億2,600万米ドル相当がそこへ出荷された。その他の主要市場は、オランダ、香港、中国、英国のほかブラジル、タイ、台湾、スペイン、コロンビア等であった。

このセクターの主要な輸出業者は、コンポソル、ホーティフルーツペルー、アグロビジョンペルー等の企業であった。ラリベルタ県が主な供給源で総輸出の60%を占め、次いでランバイエケ、イカ等の県が続いた。

年間(12カ月)では、2023年の年次報告書によると、ブルーベリーの輸出額は前年比26.7%増の合計16億7,100万米ドルで、米国、オランダ、中国が上位の輸出先であった。

出典: [Blueberries Consulting](#)